

『第三者評価に参加して～事業者からのコメント～』

家庭的保育事業 佐野 吏紗

当園は、2010年に開業後、2015年に北九州市の認可を受け、今年度で開業14年目を迎えました。2022年に移転し、移転先での保育環境を改善しながら、昨年度、移転先で初の監査を経て、今回初めて第三者評価に参加させていただきました。

地域型保育事業も第三者評価へ参加できるようになり、「いずれは」との思いで、毎年「第三者評価項目」に基づいた自己評価を行っていましたが、課題は常に「地域・関係機関との連携」でした。定員5名で施設規模も小さく、職員数も少なく、生後57日目の乳児も預かる施設が、地域とどう交流し、連携を図るのか。地域に何を求められているのか。職員間でも話し合い、地域のイベントへの参加も試みましたが、メリットよりもデメリットが多く、解決には至らないまま「ここは、第三者評価委員の方々のお言葉をいただこう」と思い切った参加でした。

『規模の小さな「家庭的保育事業」に対し、「地域における事業所の役割」として何が求められているのかを知りたい』という私共の問いに対し、評価委員の方からは、「個人的な意見ですが、生後57日目の乳児を預かっていることが、最大の地域貢献だと思います」とのお言葉をいただき、職員一同安心いたしました。子育てサークルや未就園児の保護者と連携した取り組みが行えていないことを理由に「b」評価としていた項目に関しても、「園外保育の際に近隣の公園に遊びに来ている地域の親子との交流を積極的に行っている」として、「a」評価をいただけたことは、「できることを精一杯やっていることが評価につながる」と、職員のモチベーションアップに繋がりました。

今後も「子どもをまんなかに、子どもの最善の利益」を念頭に、更なる保育の質の向上に努めていきたいと思っております。